

# 中国語の副詞「再(zài)」と「又(yòu)」の意味記述

## — 動詞諸相との関係に関する一考察 —

朱 継 征

### 1. はじめに

中国語には、日本語の副詞「また」に対応するものとして「再」と「又」がある。

(1) 有时间, 请你再/×又来玩儿。(時間があれば、また遊びに来てください。)

(2) 你又/×再来了。(また来たんですね。)

(3) 我明天再/×又买一本书。(明日もまた、本をもう一冊買います。)

(4) 我昨天又/×再买了一本书。(昨日もまた、本をもう一冊買いました。)

以上の例文において、「再」と「又」はいずれも動作や情況が繰り返されることを表し、日本語の「また」や「再び」の意味に用いられることで一致している。しかし、文法上例文(1)(3)の「再」を「又」に置き換えることはできないし、また、(2)(4)の「又」を「再」に置き換えることもできない。この「再」と「又」の使い分けを制約する要因は一体どういうものであろうか。本稿はこの問題について考察する。

### 2. 辞書の記述

ここでは、先ず「再」と「又」に関する代表的な記述を見てみよう。呂叔湘(1980)では「再」と「又」を次のように説明している。

#### 「再」【副詞】

- ①動作(あるいは状態)の繰り返しまたは継続を表す。まだ実現していない動作あるいは経常的な動作に多く用いる。
- ②ある動作が、近い将来ある状況の下で発生することを表す。
- ③形容詞の前に用い、程度の増加を表す。
- ④「再」を否定詞と共に用いる。
- ⑤ほかに、もう一度。

#### 「又」【副詞】

- ‘又’の用法はほぼ三つに分かれる。(1)時間的な継続関係を表す。(2)累積を表す。時間には無関係。(3)話し手の気持ちを表す。
- ①一つの動作(状態)が繰り返し発生する、または二つの動作(状態)が相次いで発生するか、反復交替することを表す。
  - ②いくつかの動作・状態・状況が重なることを表す。
  - ③気持ち・感情を表す。
  - ④「整数」+又+「端数」 ‘又’は加算することを表す。

⑤「追伸」「追補」の意味に用いる。手紙や文章を書き終わったあとに加える文の前に付ける。後ろにコロン(:)かコンマ(,)を付ける。

【比較】 再:又 動作の繰り返しと継続を表す。‘再’はまだ実現されていないことに用い、‘又’はすでに実現されたことに用いる。

この記述によると、「再」と「又」は動作の繰り返しと継続を表す点で共通しているが、「再」はまだ実現されていないことに用いられる点で、既に実現されたことに用いられる「又」と区別されている。しかし、この記述には不備がある。次の例文に注目されたい。

(5) 下星期他又/X再要去出差了。(来週彼はまた出張することになっている。)

(6) 明晚你要去他家,他肯定又/X再在喝酒呢。

(明晩彼の家に行ったら、彼はきっとまたお酒を飲んでいるでしょう。)

(7) 我昨天有急事,找你好几趟你都不在,所以今天我只好再/X又来。

(昨日急用ができて何度もお訪ねしましたが、お留守でしたので、仕方がなく今日またうかがいました。)

(5)(6)はまだ実現されていないことなのに、何故「再」が使えず、「又」を使わなければならないのか。(7)は既に実現されたことなのに、何故「又」が使えず、「再」を使わなければならないのだろうか。このような現象を呂氏の記述で説明することは不可能である。

### 3. 方法

「再」「又」の使い分けについて体系的に説明しようとする先行研究は少なくない。しかし、今まで「再」「又」の使い分けと動詞諸相とを関連付けた研究はまだないと言っていい。本稿では、新たな視点から、つまり、「再」「又」の使い分けと動詞諸相とを関連付けて、それらを制約する要因について考察を行う。但し、「再」「又」の「動作の繰り返しと継続を表す」意味と用法に限定し、その他の用法には触れないことにする。

中国語の動詞諸相については、朱継征(1993)に従い、動相と静相に分けて考察する。以下はそれを再整理したものである。

#### 3.1. 動相について

いわゆる「aspect」という概念については、日本では「相(アスペクト)」と訳されることもあるし、「態」と訳されることもある。一方、中国では「動態」「態」と訳されることもあれば、「動相」「相」と訳されることもある。本稿では朱(1993)に従い、それを「動相」と呼ぶことにする。

動相の定義:動相とは動詞の表す時間的動きの全過程のどの局面に焦点を当てて、その時間的動きを捉え、表現するののかを表し分ける形式である。

動相は、動詞が示す時間的「動き」を捉えた表現なので、時間的「動き」の「痕跡」を「点」又は「線」の形で捉え直すことが可能である。従って、中国語における動相の全過

程の「痕跡」は図1のように表すことができる。

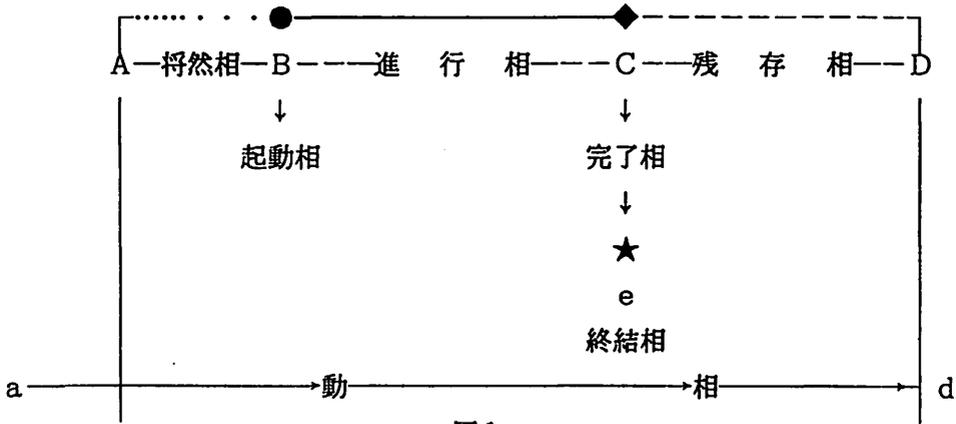


図1.

AからDまでは動相の全過程を表す。aからdまでの(→)は時間の流れを表す。

AからBまでの過程は将然相である。将然相は時間的幅を持っているので、「線」の形(.....)で表す。

Bは起動相である。起動相は時間的幅を持たないので、「点」の形(●)で表す。

BからCまでの過程は進行相である。進行相は時間的幅を持っているので、「線」の形(——)で表す。

eは終結相である。終結相は時間的幅を持たないので、「点」の形(★)で表す。

Cは完了相である。完了相は時間的幅を持たないので、「点」の形(◆)で表す。

CからDまでの過程は残存相である。残存相は時間的幅を持っているので、「線」の形(----)で表す。

AからC/eまでの過程をひとまとめにして、「点」の形にしたものが経験相である。(■)で表す。

図1の中で「点」又は「線」の形で捉え直した中国語動詞の表す時間的動きの各局面、つまり中国語の動相諸相とその文法的諸形式との関係は次のようにまとめられる。

各局面	.....	●	——	★	◆	----	■
動相諸相	将然相	起動相	進行相	終結相	完了相	残存相	経験相
中国語の動相諸形式	要~了 快~了 该~了	~起来 开始~	~着~呢 正~在~	~完 ~好	~了	~着 ~了	~过

表1.

中国語の動相諸形式及びその意味と例文は以下のようにまとめられる。

動相諸相	動相諸形式	動相諸相の意味と例文
① 将然相	「要～了」 「快～了」 「该～了」	実際には動作・作用は開始していないが、既に実現態勢に入っていることを表す。 要下雪了。（雪が降りそうだ。） 他要在墙上写字了。（彼は壁に字を書くところだ。）
② 起動相	「～起来」 「开始～」	動作・作用の開始を表す。 雪下起来了。（雪が降り出した。） 他在墙上写起字来了。（彼は壁に字を書きはじめた。）
③ 進行相	「～着」 「正在～」 「～呢」	動作・作用の進行最中を表す。 正在下雪呢。（雪が降っている。） 他正在墙上写字。（彼は壁に字を書いている。）
④ 終結相	「～完」	動作・作用の終結を表す。 这本书我看完了。（この本は読み終わった。） 他吃完了。（彼は食べ終わった。）
⑤ 完了相	「～了」	動作・作用の完了を表す。 昨天下雪了。（昨日雪が降った。） 他在墙上写了两个字。（彼は壁に二文字書いた。）
⑥ 残存相	「～了」 「～着」	動作・作用の終了後の残存を表す。 路上下了很多雪。（道に雪が沢山積もっている。） 墙上写着字。（壁には字が書いてある。）
⑦ 経験相	「～过」	動作・作用の経験があることを表す。 我看过这本书。（この本は読んだことがある。） 他去过英国。（彼は英国に行ったことがある。）

表 2.

### 3.2. 静相について

静相の定義：動詞の表す時間的動きの過程と関係なく、動詞の表す主体の意志、話者の主観的判断或いは事象の属性、経常的現象等という静的側面を捉え、表そうとする動詞表現一般を指す。

中国語動詞の静相形式及びその意味と例文は以下のようにまとめられる。

静相形式	静相の表す意味と例文
V (裸形動詞)	主体の意志や話者の主観的判断を表す。〈未然的意味を表す〉 我看这本小说。(私はこの小説を読む。) 他坐船去英国。(彼は船で英国に行く。)
	事象の属性を表す。〈恒常的意味を表す〉 地球围绕太阳转。(地球は太陽の周りを回る。) 虎吃肉, 羊吃草。(虎は肉を食べ、羊は草を食べる。)
	動作・作用の経常的現象を表す。〈経常的意味を表す〉 我经常看小说。(私はよく小説を読む。) 他每天都去学校。(彼は毎日学校に通う。)

表3

本稿では、「再」、「又」と動詞諸相との関係について考察を行う際、動詞諸相に関する部分は朱継征(1993)に従うことにする。

## 4. 分析

### 4.1. 動相との関係

次に「再」、「又」と動相諸形式との修飾・被修飾関係について個別的に考察を行う。

#### 4.1.1. 将然相との関係

将然相とは、意味上、実際には動作・作用は開始していないが、既に実現態勢に入っていることを表す。文法上、「要～了」「快～了」「该～了」等の形式で表す。ここで、「再」「又」と将然相との関係について見てみよう。

- (8) 又/×再快下雨了。(また雨が降りそうだ。)
- (9) 又/×再该放暑假了。(また、もうじき夏休みになる。)
- (10) 你今天不早睡, 明天又/×再要起不来床了。

(早く寝ないと、明日もまた起きられないよ。)

このように、実際には動作・作用が開始していないが、既に実現態勢に入っていることを表す将然相では、その動作・作用はまだ実現されていないはずなのに、文法上將然相形式のついた述語を修飾するには「再」は使えず、「又」を使わなければならない。意味上「又」は動作・作用が再び実現態勢に入っていることを表す。このことから呂氏(1992)の記述が正確でないことが分かる。

#### 4.1.2. 起動相との関係

起動相とは、意味上、動作・作用の開始を表す。文法上、「～起来」「开始～」等の形式で表す。ここで、「再」「又」と起動相との関係について見てみよう。

(11) 她又／×再哭起来了。(彼女はまた泣きだした。)

(12) 明天她听了这个消息后, 又／×再会哭起来的。

(明日このことを聞いたら、彼女はまた泣き出すだろう。)

(13) 那两个国家又／×再开始打仗了。(あの二つの国はまた戦争を始めた。)

(14) 明年我们又／×再将开始学习汉语。(来年また中国語を勉強し始める。)

起動相には、(11)(13)のように既に実現されたことを表す例文もあれば、(12)(14)のようにまだ実現されていないことを表す例文もある。しかし、動作・作用が実現されたかどうかとは関係なく、文法上起動相形式のついた述語動詞の修飾には「再」は使えず、「又」を使わなければならない。意味上「又」は動作・作用の開始の繰り返しを表す。

#### 4.1.3. 進行相との関係

進行相とは意味上、動作・作用の進行最中を表す。文法上、「～着」「在～」「～呢」「正在～」等の形式で表す。

(15) 现在弟弟又／×再在看电视呢。(今、弟はまたテレビを見ている。)

(16) 昨天我回家时, 弟弟又／×再在看电视呢。

(昨日家に帰った時、弟はまたテレビを見ていた。)

(17) 明天你要是晚上来我家的话, 弟弟肯定又／×再在看电视呢。

(明日の夜家に来たら、弟はきっとまたテレビを見ているだろう。)

(18) 外边儿又／×再刮着风, 下着雨, 天空阴沉沉的。

(また風が吹いたり、雨が降ったりして、空は曇っている。)

例文の(15)(18)は現在進行相、(16)は過去進行相、(17)は未来進行相である。しかし、「再」「又」は過去・現在・未来というテンスとも、実現されたかどうかとも関係なく、文法上、進行相形式の修飾には「再」は使えず、「又」を使わなければならない。意味上、「又」は動作・作用の進行最中の繰り返しを表す。

#### 4.1.4. 終結相との関係

終結相とは、意味上、動作・作用の終結を表す。文法上、「～完」「～好」等の形式で表す。

(19) 昨天我又／×再看完一本小说。(昨日また小説を一冊読み終わった。)

(20) 明天我又／×再要看完一本小说。(明日また小説を一冊読み終わるだろう。)

(21) 昨天他又／×再写好一篇论文。(昨日彼はまた論文をもう一本完成した。)

(22) 明天他又／×再将写好一篇论文。(明日彼はまた論文をもう一本完成するだろう。)

終結相形式の修飾には「再」は使えず、「又」を使わなければならない。「又」は動作・作用の終結の繰り返しを表す。

#### 4.1.5. 完了相との関係

完了相とは、意味上、動作・作用の完了を表す。文法上、「～了」という形式で表す。

(23) 昨天我又／×再买了一本书。(昨日また本を一冊買った。)

(24) 他又／×再吃了两个饺子。(彼はまたギョーザをもう二個食べた。)

(25) 等你写完这一篇论文，那我早就又／×再发表三篇论文了。

(君がこの論文を書き終える時、僕はとっくに論文を三本発表しているだろう。)

完了相形式の修飾にも「再」は使えず、「又」を使わなければならない。「又」は動作・作用の完了の繰り返しを表す。

#### 4.1.6. 残存相との関係

残存相とは、意味上、動作・作用の終了後の残存を表す。文法上、「～了」「～着」等の形式で表す。

(26) 墙上又／×再挂了一张地图。(壁にはまた地図が掛けてある。)

(27) 桌子上又／×再放着一个花瓶。(机の上にはまた花瓶が一つ置いてある。)

残存相形式の修飾にも「再」は使えず、「又」を使わなければならない。「又」は動作・作用の終了後の残存の繰り返しを表す。

#### 4.1.7. 経験相との関係

経験相とは、意味上、動作・作用の経験を表し、文法上、「～过」という形式で表す。

(28) 去年我又／×再去过两次美国。(去年も二度アメリカに行っている。)

経験相形式の修飾にも「再」は使えず、「又」を使わなければならない。「又」は動作・作用の経験の繰り返しを表す。

#### 4.2. 静相との関係

静相の形式は一つしかない。つまり裸形動詞である。言い替えれば、静相形式とは、い

かなる動相形式もつかない動詞である。

中国語において、過去・現在・未来というテンスは、動詞自体によって表すことができず、時間名詞、副詞あるいはコンテクスト等を用いることによって表す。よって、静相形式、つまり裸形動詞は過去にも、非過去にも用いることが可能である。ここでは過去・非過去に分けて、「再」、「又」と静相形式との修飾・被修飾関係について見てみよう。

(29) 第一次见到她, 她还是个高中生, 十年后再/×又见到她, 她已当妈妈了。

(最初に彼女に会った時、彼女は高校生だったが、十年後またあったら、彼女はもうお母さんになっていた。)

(30) 我九点去学校时, 大家还都没来; 我十点再/×又去学校, 大家已经都出发了。

(九時に学校に行った時には、誰も来ていなかった。十時にまた行ったら、みんなもう出発してしまっていた。)

(31) 我昨天有急事, 找你好几趟你都不在, 所以今天我只好再/×又来。

(昨日急用ができて何度もお訪ねしましたが、お留守でしたので、仕方がなく今日またうかがいました。)(=?)

(32) 现在我家里有客人, 请你过三十分再/×又来电话, 好吗?

(今お客さんが来てますので、三十分後にもう一度お電話いただけますか?)

(33) 咱们再/×又喝一杯吧! (もう一杯飲みましょう。)

(34) 有时间, 我再/×又来打搅你。(時間があれば、またお伺い致しましょう。)

例文(29)~(31)は過去、(32)~(34)は非過去を表しているが、文法上過去・非過去を問わず、静相形式、つまり裸形動詞の修飾には「又」は使えず、「再」を使わなければならない。意味上、「再」は静相における動作・作用の繰り返しを表す。

#### 4.3. 判断動詞「是」の場合

(35) 这次比赛肯定又/×再是我们队赢。

(今度の試合はきっとまた我々のチームが勝つぞ。)

(36) 要杀就杀少说废话, 反正二十年后老子又/×再是一条好汉。

(殺すなら殺せ、余計なことを言うな。どうせ俺は二十年後また生まれ変わって、りっぱな男になるぞ。)

例文(35)(36)は判断動詞「是」を述語動詞として用いることで共通している。この「是」は日本語の「である」に当たるもので、中国語においても、特別な存在であり、普通動相形式のつかない動詞である。しかし、(35)(36)は述語動詞「是」が「又」に修飾されたことによって、「実際には動作・作用は開始していないが、既に実現態勢に入っていることを表す」という将然相の意味を持つようになる。よって、「是」を修飾するには「再」ではなく、「又」を使わなければならない。

#### 4.4. 動相形式の欠落した場合

日常会話の中で、語用論的環境、つまり会話の前後関係が明確な場合には動相形式が欠落することもある。例えば、

(37) 你怎么又／×再哭了？（どうしてまた泣いたの？）

(38) 你怎么又／×再在哭？（どうしてまた泣いているの？）

(39) 你怎么又／×再要哭了？（どうしてまた泣くの？）

例文(37)は泣きやんだ聞き手に、(38)は泣いている聞き手に、(39)は泣きそうな聞き手に対して言う言葉である。このように語用論的環境が明確な場合は、(37)～(39)は以下のように動相形式を用いずに表現することもできる。

(40) 你怎么又哭？（どうしてまた泣いた／泣いている／泣くの？）

例文(40)の場合では、文法上「又」は裸形動詞を修飾できるようにみえるが、実際には語用論的環境に支えられることによって、「哭」という動詞の動相形式が欠落したのである。意味上(40)は(37)～(39)のいずれかに当たるものなので、動相表現と見なすのが妥当である。

#### 5. まとめ

これまで分析してきた結果を以下にまとめる。

1. 以上の分析から、「再」はまだ実現されていないこと（即ち未然）に用い、「又」は既実現されたこと（即ち已然）に用いるという従来の文法記述は正確ではないことがわかる。

2. 「再」は静的に動作・作用の繰り返しを表すため、動相とは無縁のものであり、動相形式のついた述語動詞を修飾することはできない。「又」は動的に動作・作用の繰り返しを表すため、動相とは縁の切れないものであり、いつも動相形式のついた述語動詞あるいは動相形式の欠落した動相的意味を持つ述語動詞を修飾することに用いることができる。要するに、「再」と「又」の使い分けを制約する要因は動相と静相の対立なのである。

本稿では文法上、意味上「再」と静相との密接な関係、そして、「又」と動相との密接な関係をはじめて指摘したと思う。

以上の分析をもとにして、「再」と「又」の意味用法を以下のように示す。

「再」は静的動作・作用の繰り返しを表す。常に静相表現を修飾することに用いる。

「又」は動的動作・作用の繰り返しを表す。常に動相表現を修飾することに用いる。

ヤーホントフ(1957)は「中国語のアスペクトは、人によってその数がまちまちで、研究者は各人各様のものを挙げているが(呂叔湘の挙げるものは12種にのぼる)、このような学説の食い違いは、一体、いかなる文法形式をアスペクト形式と見なすべきかという問題が、明確にされていないことにもよるものである。」(橋本万太郎1987訳)と指摘している。

ヤーホントフは、中国語の動相形式に関する先行研究に対して様々な批判を行ってはいないものの、動相形式に関する彼独自の体系を挙げるに至っていない。以来、中国語の動相形式に関する研究が数多く生まれてきているが、この問題は十分に解明されていないようである。

中国語の動相形式に関する研究が深まるにつれて、「再」と「又」の使い分けを制約する要因は益々明らかになるはずである。今後とも、この動相形式を研究課題としたい。

本稿では「再」、「又」と否定表現との関係、そして、疑問文との関係についてほとんど触れていないが、紙幅の関係で、ここで割愛する。以上未熟な考えであるが、識者のご教示を乞う次第である。

#### ／参考文献／

- 呂 叔湘 1980年(1992年牛島徳次監訳・菱沼透訳)『中国語用例辞典——現代漢語八百詞日本語版』 東方書店
- 李 文治 1982年「关于“又”和“再”」 『語言教学与研究』 第1期
- 藤堂明保・相原 茂 1985年『新訂 中国語概論』 大修館書店
- 马 希文 1985年「跟副词“再”有关的几个句式」 『中国语文』 第2期
- 杨 淑璋 1985年「副词“还”和“再”的区别」 『语言教学与研究』 第3期
- C. E. ヤーホントフ(橋本萬太郎訳) 1987年『中国語動詞の研究』 白帝社
- 相原 茂 1992年「“×你明天再来吗?”の非文法性」 『大東文化大学語学教育研究所10周年記念現代中国語文法研究論集』
- 朱 繼征 1993年「中国語動詞の『動相』と『静相』について」 『教学』 日中学院出版局 第15期
- 周 剛 1993年「说“再”」 『中国語学』 第240号

(Zhu jizheng 東京都立大学大学院学生)